

## 国語

## ➔ 1年生 | 「語彙指導 (ひらがなの指導)」

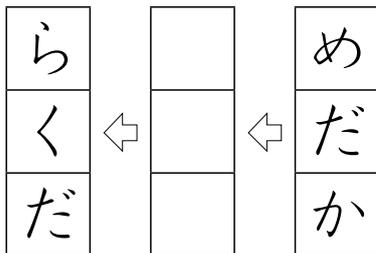
## ひらがなでことばをみつめよう

## 1. はじめに

入門期の1年生にとって、文字を獲得することは、学ぶ喜びと直結している。「先生、早くひらがなを教えてよ」という声を聞くと、「よし、教えてやろう」という教師としての指導意欲が湧いてくる。

子どもたちが楽しみながらひらがなが学べるように、クロスワードを使った実践を紹介する。なお、この作業では辞書は使わない。

## 2. &lt;プラン1&gt; しりとりでことばをつなぐ



答えは「かめら」など

しりとりでことばをつなげることはよく行われるが、間にことばを入れるのは難しい。文字のはじめと終わりを意識して、ことばを創らなければいけないからである。

## 3. &lt;プラン2&gt; クロスワードでことばを創る

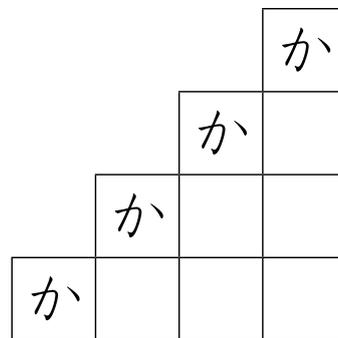


答えは「りぼん」「りんご」「ぼたん」など

縦横を意識してことばを集めなければいけない。

複数のことばを考えて、うまく当てはまるかどうかを考えながら文字を埋めていく。その作業によって語彙が増えていく。

## 4. &lt;プラン3&gt; 階段でことばを積み上げる



答え 縦読み・右から「かまきり」「かんな」「かみ」など  
横読み・上から「かま」「かんき」「かみなり」など

縦の文字がうまく当てはまっても、横の文字が当てはまらないということになり、子どもたちは一生懸命考える。階段の数をも5文字、6文字と増やしていくと、より一層難しいものになる。

## 5. 終わりに

例として紹介したものは、文字数を少なくしている。子どもたちができるようになるにつれ、少しずつ文字数を増やしてほしい。また、カタカナで書くことばを見つけようということで、外来語の指導をしてもよい。

この実践に汎用性をもたせるには、ゲーム的な要素をどれだけ盛り込めるかがカギである。一人で考えるだけでなく、グループで考えるなどの工夫があっても楽しい実践になる。また、授業者としては、子どもたちから「面白かった。なかなかできない」という声が聞こえてくるのが何よりの楽しみである。